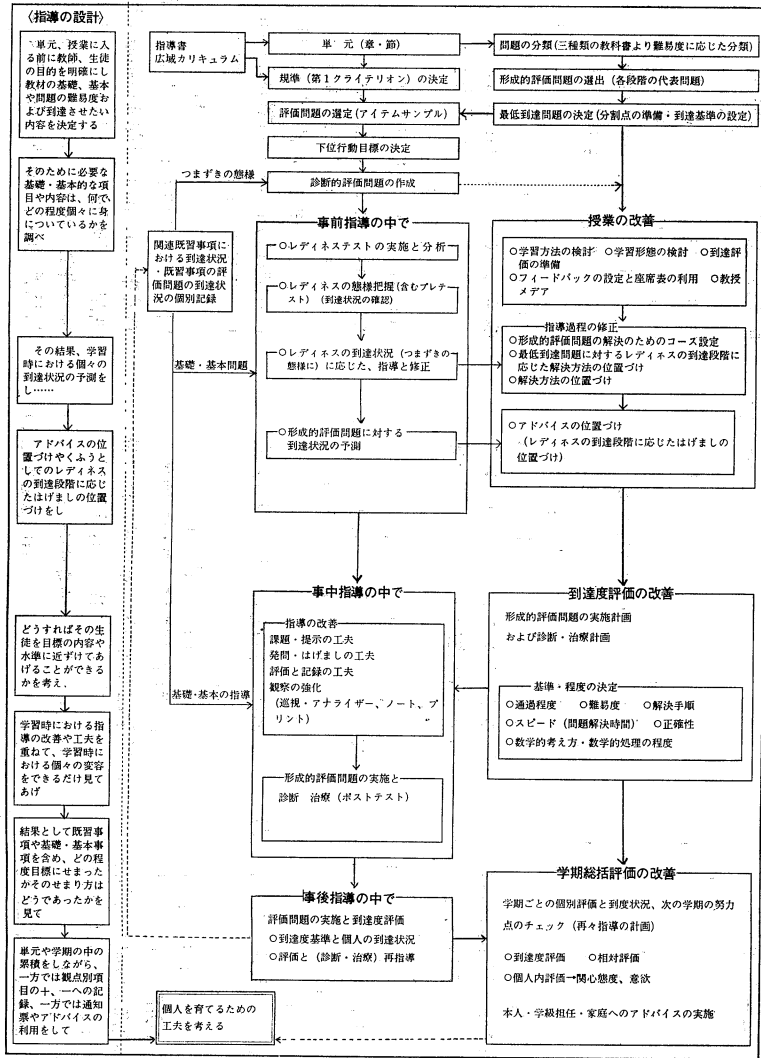


図1 昭和56年度 実践経過 関連図



人的に面接して話を聞いた。アドバイザーや個別指導には、内容場所、程度にだいぶ気を使ったつもりでも思うようにはいかない。今後の反省にしたい。

② アナライザーの位置づけについては、アンケートⅥの結果を見てもわかるように班活動に位置づける方法への支持率六〇%以上は、授業過程、提案や形成的評価問題に対する利用の方法に対して、いずれも八〇%以上の支持が得られ

た。即決を必要とする内容で一斉授業の中でより個を見ようとする場合に有効な教育機器である。更に生徒の内面的な動き意見のねりあげつまずきの対応の点においても効果的であることが生徒の反応からも実証された。到達度評価を授業に位置づける上で有効な教育機器といえる。

六 反省と今後の課題

(一) 到達度評価におけるアイテムサン

プリングは、同教科担当者による共同研究によって行うのが良い。

(二) レディネスや形成的評価問題の解決に努力して再学習の効果が見られた者と、努力なしに同等の水準を得た者の評価の差を、通知票等に生かしたい。

(三) 四省略

図2 アイテムサンプリング (代表問題の決定) 乗法公式  $x+a$  と  $x+b$  の積 (中教研安達支部数学科、分類表利用)

段階	段階1 (基礎・基本)	段階2 (基礎・基本)	段階3 (基本)	段階4 (基本・応用)
基準内容	原理や公式を理解させるための基本問題	原理や公式を利用させるための基本問題	全員到達させたい基本問題	
	(東書) (大阪) (大日本)	(東書) (大阪) (大日本)	(東書) (大阪) (大日本)	
	$(x+1)(x+2)$ $(x+2)(x+3)$	$(x+5)(x-2)$ $(x+4)(x-6)$	$(x+3)(x-4)$ $(x-3)(x+4)$	
	$(v+3)(v+5)$ $(x+4)(x+5)$	$(x-2)(x+5)$	$(x-3)(x-4)$ $(v+7)(v-2)$	
	$(x+5)(x+7)$ $(x+5)(x+2)$	$(x+3)(x-5)$ $(x-3)(x+5)$	$(x-6)(x+5)$ $(x-8)(x-2)$	
代表問題	$(x+2)(x+3)$ $(x+1)(x+7)$	$(x-2)(x+5)$	$(x+3)(x-4)$	
(共通問題)	$(x+5)(x+7)$	$(x+4)(x-6)$	$(a-4)(a-7)$	

※ 3種類の教科書の中から、同水準と思われる問題を基準にしたがって分類し、

↓

代表問題の中の一最遠問題を最低到達基準問題として、形成的評価問題(ポストテスト)に位置づけ、さらに重要事項は完全解答をもって基準A、思考を必要とするものは、解決手順に応じた到達として基準Bを設定した。

段階に応じたプリント等への位置づけ、およびアイテムサンプリング問題

形成的評価問題および総括的评价問題